

式辞

校門の木々が桜色から緑色へと変わり、心地よい陽気のこの良き日、第二十六回の開校記念式を迎えることができ、大変喜びを感じます。

今日のこの開校記念式にあたり、本校開校の経緯をご紹介しながら、本校の意義と生徒・教職員のみなさんのあり方について考えてみたいと思います。

本校は、大正十四年、西暦一九二五年に岡山県真備高等学校として創立されました。本校の誕生した大正十四年という時代は、大正デモクラシーといわれた民主主義推進の機運の高まっていた時代で、その中で女性の地位向上を目指した婦人運動が盛んであった時代でもあります。本校の創立は、そういった運動の中で女性の識者の女子教育に対する悲願でもありました。本校は女子教育振興のため岡山連合婦人会の幹事四十二名が発起人となって高等女学校建設連盟を組織し、一般有志の方々に募金をお願いして創設されましたが、創設までには様々な困難や、様々な方のご協力・ご尽力がありました。

学校を創設するにあたって、土地、建物、備品等の用意が必要ですが、当初の試算では十三万円あまりの予算が必要でした。これは、現在の価格に換算すると約五億円となります。このお金を婦人会の方々が一人一円の寄付を集めてまわろうというのです。単純に考えれば十三万人の寄付が必要になります。ですから、様々な方々が寄付に協力してくださいましたが、なかなか予定の金額までは到達しませんでした。そのような中、実業家として活躍されていた八代祐太郎、麻三郎両氏から五万円ずつの寄付をいただくことができました。この多額の寄付に、学校名を「八代高等学校」とするという案もありましたが、八代氏は「もしどうしてもそうするのであれば、寄付の額は一円とさせていただく」と固辞され、創設者や功労者としてではなく、あくまで婦人会の学校設立運動の支援者として寄付をくださいました。また、寄付をいただいた方の名簿を見ると、今お話しした八代家の方々や各地の婦人会の方々だけではなく、大原美術館を創設した大原孫三郎氏や天満屋の創業者の方の名前も見え、婦人会の方々の学校設立の熱意が岡山県全体を揺り動かしていたのが目に見えるようです。

創設資金を集めるだけでなく、学校としてのまとまった土地を探して購入することも学校創設に向けて重要なことでした。

そのような中、岡山師団の跡地が候補に挙がりましたが、その土地を購入する際も、いろいろな方々のご尽力により、土地の購入資金の無利子での融資や総額の削減が達成され、また、それだけでは足りない土地については、この地元西坂の方々のご厚意で安価で購入することが出来ました。本校の敷地では、校門のつじの根元の方に岡山師団の跡を現在でもみることができます。

このように、岡山の女性たちを中心とした寄付運動や様々な方々のご支援の結果、校是「まこと」をかかげ、大正十四年に本校は最初の一步を踏み出すことになったのです。その後、いわゆる良妻賢母教育が主流であった女子教育の中で、一人の人間としての教育を目指して平成八年まで女子校として成果を挙げてまいりましたが、平成九年からは新たな時代に向けて、男女共学となり、校名も明誠学院高等学校となりました。その後も、常にコースや系のあり方を検討しながら現在にいたります。

非常に駆け足で本校の沿革をここに述べましたが、本校が寄付で設立されたというお話は、2・3年生の方はもうすでにお聞きになっているかもしれません。実は、そのことは本校が日本の学校でも特別な存在であることに大きく関わっています。

日本には国や県、市町村が作った公立学校と、いろいろな個人や団体などが設立した私立学校があります。その中には本校は私立学校に含まれますが、他の私立学校とは大きく異なるところがあります。今申し上げた寄付による設立というものもそうですが、その寄付は、「学びたい」という熱意によってスタートしているということです。他の私立高校は「創業者」である誰かが、「このような教育をしたい」という意図をもって設立されています。しかし、本校は岡山の女性たちの「学びたい」「学校に行きたい」という熱意を元に設立されているのです。

教育というものは、長らく「誰かに教えられるものを学ぶ」という形で進められてきました。しかし、昨今は自ら考え学ぶという方向へと転換しています。本校はそのような現代の風潮を大正時代に体現した非常にまれな学校なのです。

今日の開校記念日にあたり、本校の設立の経緯にもとづいて、みなさんをお願いいたします。

今、自分がここにいることについて感謝の気持ちを忘れないでください。明誠学院高校での現在の生活があるのは、一番最初に寄付を始めた方だけではなく、その後、連綿と続く学校の歴史の中で学校をかたちづくっていった卒業生の方たちやその保護者、関係者の方たち、教職員の方たちの一人が欠けてもありません。もちろん、現在、本校に関係する方たちや保護者の方たち、生徒の皆さんもそうです。今、ここにいるという事実は、非常に多くの方々が進みがあればなかったのです。ですから、日々誇りと感謝の心をもって学校生活を送ってください。そして、皆さんの充実した高校生活をもって、今後入学してくる後輩たちの良き道しるべとなってください。教職員一同、そのために全力を尽くしてサポートをさせていただきます。

先行きが不透明な世界の中で、校是「まこと」のもと、本校で学ぶ三年間はいかがえのないものとなるはずです。今後のみなさんの輝かしい未来と保護者、教職員、関係者の皆様のより一層のご活躍とご多幸、また明誠学院高等学校の未来の豊かならんことを祈念し、開校記念式の式辞といたします。

令和四年四月二十六日

明誠学院高等学校 吉田 栄一